

新潟県

薬物依存症者を抱える家族の会

世話人代表 小西 憲
 〒949-7513
 新潟県長岡市西川口1474の1
 電話 090-8723-3715

隠すことが回復を遅らせ生きづらさ生む

17年ほど前、息子を病院に入院させて帰ってきた女房が涙ながらに話しました。主治医に「息子さんは薬物依存症です。以前、覚せい剤を使用していたようです」と言われたのです。「覚せい剤」。私たち夫婦には何のことか分かりませんでした。覚せい剤とはテレビの中のことであつて、暴力団が使用して、私たち一般人には関係ない物を「何でうちの息子が」という思いで、混乱したのを覚えています。

薬物依存症とは違法薬物（覚せい剤、シンナー、大麻等）、処方薬、市販薬等をコントロールが出来なくなる病

気です。自分でやめようと思つてもやめられなくなつてしまい、自らが逆に薬にコントロールされてしまう恐ろしい病気です。

この病気は、第一に一生治らない、第二に死に至る、第三に家族を巻き込む病気であるということです。私たち家族は自分の息子や娘、配偶者等が薬物依存症に陥ると、最初は薬物依存症の知識はなく、例外なく愛情で治そうとします。家族は必死になつて、サラ金の整理や事件の後始末などの尻ぬぐいをしますが、本人はよくなるどころかますます悪化させていくのが今ま



家族会の月例会

での現状です。それと共に犯罪に絡んで来るため、誰にも相談することができなく、孤立してくるのが現状です。

この孤立を避ける意味からも、唯一正直に話せる場所が家族会です。私たちは家族は職場、地域の世間体を考え、只ひたすら自らに起きていたことを隠そうとします。けれどこの隠そうとする事こそ、薬物依存症者本人の回復を遅らせ、自らの社会での生きづらさを生むこととなります。

「薬物依存症は病気」という理解広めたい

私たち「新潟県薬物依存症者を抱える家族の会」は、とにかく家族が元気になることを目標に活動しています。「県民たすけあい基金」

フォーラムへの参加、中学、高校への薬物乱用防止への啓発活動などを行なっています。

の助成を受け、ダルク（薬物依存症者の回復施設）の考えを基本に月例会を長岡市で開いています。現在、20家族ほどが集まり、ミーティングや勉強会、全国各地の

この社会に於いて薬物依存症はともすると犯罪と理解されがちです。私たちの家族会も新しい仲間が登場するのは、本人、家族共にどうしようもない状態になつて、登場するのが常です。「薬物依存症は病気です」このことを社会が理解されることこそ、薬物乱用の無い社会になると確信します。



新潟ダルクと家族会合同の山菜採り

「平成27年度第3回県民たすけあい基金助成事業」を募集しています

福祉活動に関わる自主的で継続的なボランティア活動を育成助長するため、助成を希望する事業の募集を行います。詳細は新潟県社会福祉協議会ホームページをご覧ください。

<http://www.fukushinigiata.or.jp/support/>